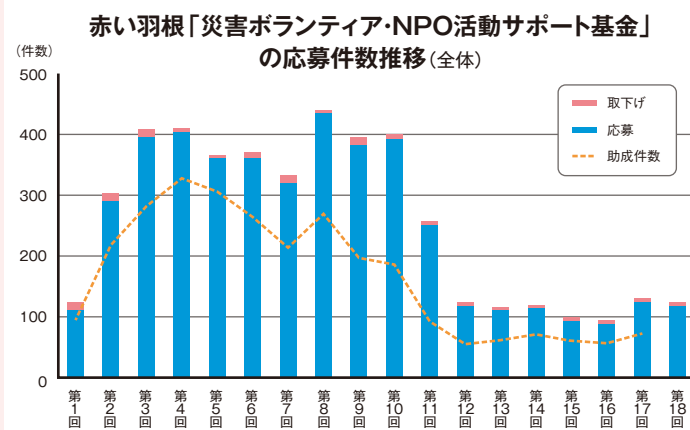


ボラサポの助成を終えて ～累計10億円に及ぶ人件費助成を実施～



4年8か月にわたる助成

中央共同募金会が主体となり、東日本大震災直後の2011年3月15日から寄付金を募集し、4月14日から第1回目の応募受付を行った赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート基金」の助成事業を終了しました。当初2年間の予定で始まったこの助成金は、被災された方たちの要請を受けて2年以上延長し、18回にわたって助成を重ねました(グラフ応募件数・助成件数)。震災後1年を経過した第8回(2012年6月受付)に最も多い応募があり、第12回(2013年9月受付)で件数は減るものの、最終回まで一定の応募がありました。



活動先・団体所在地上位5地域

応募のあった活動を「活動先」別に見ると、被害の大きく報道が多かった石巻市からの応募が2番目以降の地域に差をつけています(表①)。また、応募数の多かった団体所在地については、団体数も多く、地理的にも比較的便のよい東京が最多で、被災3県も、宮城、福島、岩手の順で上位5地域に入りました(表②)。震災直後は少なかった3県からの応募は、最終的な応募件数を見ると、地元の団体も多くボラサポを活用したことがわかります。

活動先 表①			団体所在地 表②		
	活動先	件数		団体所在地	件数
1	宮城県石巻市	1,019	1	東京都	883
2	宮城県気仙沼市	619	2	宮城県	740
3	岩手県陸前高田市	604	3	神奈川県	296
4	宮城県南三陸町	568	4	福島県	294
5	宮城県仙台市	420	5	岩手県	286

人件費の活用

ボラサポの大きな特徴のひとつが、指定寄付を受けた助成金として初めて人件費助成を認められたことでした。その人件費・謝金を活用した金額は第18回までで累計10億3,139万円となりました。これは第1～18回までの助成総額35億円のおよそ3割にあたります。人件費の助成があることで活動を継続できた団体も多くあったと考えられ、初めての試みは大きな成果を出したと言えます。

「東日本大震災」の支援は終了するのか

ボラサポの助成は今回で終了となりましたが、被災地や避難先での課題がすべて解決したわけではありません。これからさらに必要になる支援や活動があります。被災3県の共同募金会では、引き続き「被災地住民支え合いサポート基金」(ボラサポ2)による助成を行っております。震災から丸5年が経過し、もう一度東日本大震災に思いを寄せていただければと思います。



赤い羽根 だより

第4号
平成28年
秋季号



社会福祉法人 宮城県共同募金会

(発行)仙台市若林区新寺一丁目4番28号
TEL 022-292-5001
FAX 022-292-5002
URL: <http://www.akaihane-miyagi.or.jp/>



おかげさまで70周年を迎える「赤い羽根募金運動」は、
今年も10月1日から全国一斉にスタートします。
～ほんの小さなやさしさで広がる大きな支援の輪～

平成28年度 共同募金運動目標額

総額 **363,710,000円** (前年比 99.3%)

内訳

赤い羽根募金

276,148,000円

歳末たすけあい募金

78,562,000円

県域 176,530,780円

市町村 99,617,220円

NHK歳末

9,000,000円

「共同募金」について

赤い羽根共同募金は、民間の運動として戦後直後の1947年(昭和22年)に、市民が主体の取り組みとしてスタートしました。当初は戦後復興の一助として、戦争の打撃を受けた福祉施設を中心に資金支援する活動としての機能を果たしてきました。

その後、「社会福祉事業法(平成12年社会福祉法に改正)」という法律をもとに「民間の社会福祉の推進」に向けて、社会福祉事業の推進のために活用されてきました。

そして70年以上たった今、社会が大きく変化する中で、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む、民間団体を支援する仕組みとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として、共同募金は市民主体の運動を進めています。

赤い羽根共同募金は、市民自らの行動を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ。」です。



VOXY

特別仕様車 HYBRID ZS“煌Ⅱ”
【ベース車両はHYBRID ZS(7人乗り・2WD)】。
ボディカラーはブラック(202)。

ヴォクシー特別仕様車
HYBRID ZS“煌Ⅱ”
7人乗り 2WD 電気式無段変速機
(ZWR80W-BPXS(C))

3,321,000円
(消費税込)



特別仕様車 ZS“煌Ⅱ”
【ベース車両はZS(7人乗り・2WD)】。
ボディカラーのホワイトパールクリスタルシャイン
(070)はメーカーオプション(32,400円)。

ヴォクシー
特別仕様車 ZS“煌Ⅱ”
7人乗り 2WD Super CVT-i
(ZRR80W-BPXSP(C))

2,830,680円
(消費税込)

ネットトヨタ仙台

本社 / 仙台市宮城野区日の出町2丁目2-43
ホームページもぜひご覧ください

☎ **0120-12-0010**
<http://www.netz-sendai.jp>



平成27年度 共同募金運動結果について



赤い羽根募金

311,011,871 円 (前年比 104.5%)

県 域 214,937,553 円

市町村域 96,074,318 円

歳末たすけあい募金

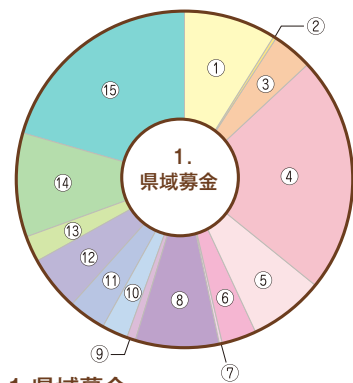
89,512,880 円 (前年比 100.8%)

地域歳末 79,531,165 円

NHK歳末 9,981,715 円

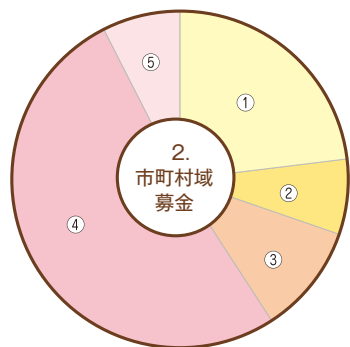
総 計 **400,524,751 円** (前年比103.7%)

募金の使い道について



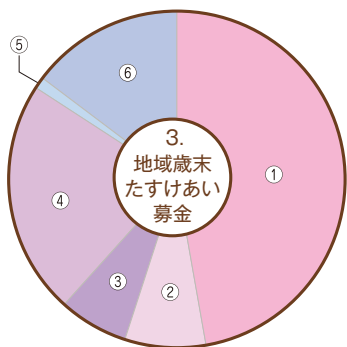
1. 県域募金

① 社会福祉施設整備事業 (車両・施設の修繕・備品購入)	22件	19,470,000円
② 子育て支援事業	3件	650,000円
③ 社会福祉団体支援	12件	8,460,000円
④ 安全生活支援事業	192件	48,970,000円
⑤ 住民力・地域力・福祉力を高める支援事業	1件	15,000,000円
⑥ 被災地遊具整備事業	1件	7,508,027円
⑦ 難病救済活動支援事業	1件	350,000円
⑧ みやぎチャレンジプロジェクト	15件	17,836,065円
⑨ 児童養護施設自立支援事業	7件	2,000,000円
⑩ 緊急配分支援事業	1件	5,000,000円
⑪ その他配分金	-	8,429,841円
⑫ 災害準備金積立	-	11,000,000円
⑬ 小規模災害支援	-	5,000,000円
⑭ 奉仕活動推進費	-	21,502,692円
⑮ 次年度運動経費	-	43,760,928円
合 計	255件	214,937,553円



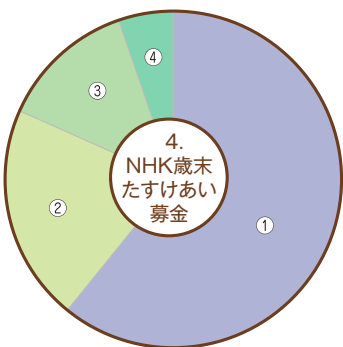
2. 市町村域募金

① 高齢者支援	91件	22,057,336円
② 児童・青少年活動支援	65件	7,291,630円
③ 障害児・者支援	61件	10,253,991円
④ 住民全般活動支援	192件	49,177,921円
⑤ 奉仕活動推進費	35件	7,293,440円
合 計	444件	96,074,318円



3. 地域歳末たすけあい募金

① 高齢者支援	102件	36,896,182円
② 児童・青少年活動支援	49件	6,218,865円
③ 障害児・者支援	44件	5,863,791円
④ 住民全般活動支援	65件	17,656,899円
⑤ 奉仕活動推進費	35件	1,612,391円
⑥ 次年度運動経費	6件	11,283,037円
合 計	301件	79,531,165円



4. NHK歳末たすけあい募金

① 車両整備事業	2件	4,796,198円
② 施設・団体の年末年始の行事費	42件	1,660,000円
③ 児童養護施設等普通自動車免許取得支援事業	7件	1,050,000円
④ 奉仕活動推進費	-	459,436円
合 計	51件	7,965,634円

※ 2,016,081円は次年度繰越金に充当

詳しい募金の使い道、配分先の詳細については本会ホームページをご覧ください。

HPアドレス <http://www.akaihane-miyagi.or.jp/>



平成27年度 収入支出決算報告書

宮城県共同募金会の平成27年度決算をご報告いたします。皆様からお寄せいただいた寄付金は、平成28年度に社会福祉施設や社会福祉団体、そして社会福祉協議会等が行う地域の福祉活動など様々な事業に使われます。決算時にはこの事業費は「未交付配分金」として計上され、翌年度すみやかに実施団体へ送金されます。

■貸借対照表

平成28年3月31日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	486,332,910	流動負債	266,629,105
現金預金	486,084,782	事業未払金	509,961
立替金	150,000	その他の未払金	0
前払費用	92,528	未交付配分金 ※1	229,117,546
仮払金	5,600	未払費用	0
		預り金	847,749
		災害等準備金	36,153,849
		平成27年度災害等準備金	11,000,000
		平成26年度災害等準備金	11,000,000
		平成25年度災害等準備金	12,000,000
		平成24年度災害等準備金	2,153,849
固定資産	53,056,911	固定負債	7,639,940
基本財産	37,908,800	退職給付引当金	7,639,940
土地	12,200,000	負債の部合計	274,269,045
建物	22,708,800	純資産の部	
特定預金	3,000,000	基本金	3,000,000
その他の固定資産	15,148,111	第1号基本金	3,000,000
構築物	2,462,985	その他の積立金	5,000,000
車両運搬具	2	その他の積立金	5,000,000
器具及び備品	30,184	次期繰越活動増減差額 (うち当期活動増減差額)	257,120,776 △19,261,490
退職給付引当金資産	7,639,940		
差入保証金	15,000		
その他の固定資産	5,000,000	純資産の部合計	265,120,776
資産の部合計	539,389,821	負債及び純資産の部合計	539,389,821

※1 共同募金は、集まった募金の翌年度に配分される仕組みです。配分団体については、本会の配分委員会で厳正な審査により決定されます。この決定された配分額(事業費)が、実施団体に配分する「未交付配分金」として計上されています。

「みやぎチャレンジプロジェクト」 ～初年度を振り返って～

自殺・虐待・いじめ・路上生活・災害など多様な社会課題が生まれているなかで、本会では、従来の10月1日から12月31日の3か月間であった共同募金運動の期間を3か月間拡大し、地域課題を解決する活動に取り組む県内のボランティア団体・NPOと一緒に募金を集め、課題解決につなげる「みやぎチャレンジプロジェクト」を平成27年度から開始しました。

このプロジェクトは、地域住民やボランティア団体・NPOなどが主体となり、自らの地域課題を解決するための活動やサービスを企画し、その活動への市民の共感や賛同を募金の形で得る、活動と募金の循環を生み出す新たな共同募金の仕組みづくりを目指すものです。



■プロジェクト実行委員会の立ち上げ■

本会では、プロジェクトの検討にあたって宮城県社会福祉協議会や県内のNPO中間支援組織、報道関係者などで構成する「みやぎチャレンジプロジェクト実行委員会」を立ち上げ、趣旨や募集要項の検討を行いました。また、募集要項を公開した後、実際の参加団体の募集にあたっては、県内3か所で説明会を開催し、ボランティア団体・NPOへの周知活動にも力を入れました。結果として18団体からの応募があり、実行委員会での審査を経て、最終的に15団体がプロジェクトに参加することになりました。

■プロジェクトから見えてきたもの■

共同募金会が、地域課題を解決する活動に取り組む団体(ボランティア団体・NPO、社会福祉法人等)と連携し、テーマ型募金を実施するためには、社会福祉協議会、NPO中間支援組織、関係機関などと連携し、活動団体のニーズを把握しながら参加団体を支援していくプロセスが重要となります。

地域福祉を推進する民間財源として共同募金を発展させていくためには、従来の募金手法に加えて、テーマ型募金という新しい募金手法に積極的にチャレンジし、地域課題の解決に向けた募金の増強を図っていくことが求められます。

■2年目に向けて…■

多様な社会課題が増加する一方で、それを支える募金への意識は年々低下してきております。また、補助金・助成金等の廃止や要項の厳格化によりボランティア団体・NPOの活動財源の確保が難しくなっているのが現状です。自らの活動のために、自らの想いを伝え行動する自発的な募金集めは、各団体の資金面を補助するだけでなく、組織の育成にもつながることを再認識しました。

初年度の反省を踏まえつつ、新たな団体も加えて2年目がスタートします。新しい資金循環の仕組みの構築を図り、また各団体に寄り添いながら事業展開して参ります。



■募金活動に向けた参加団体同士のつながり■

参加が決定した団体や実行委員による連絡会や決起会を開催し、1月からの募金活動開始に向けて、募金者へ訴えかけるメッセージやチラシ作りのためのワークショップを行い、募金活動への準備を進めました。



■プロジェクトが呼び水となって…■



プロジェクトにご賛同をいただいた企業・個人からも多額の募金が寄せられました。県内10店舗を営営するパン製造・販売業の株式会社パンセ様より、FM仙台とのコラボ企画で販売された商品個数37,554個×10円の総額375,540円の募金を頂戴し、参加団体へ均等に助成しました。

【平成27年度 本プロジェクトの実績】

団体数	募金件数	募金額	1件あたりの単価
15	892	11,213,084円	12,515円

